

第3回岩手県海岸保全基本計画検討協議会の議事概要について

日 時：令和8年6月5日（金）13：30～14：52

場 所：マリオス 18階 185・186会議室（Web併用）

出席構成員：小笠原敏記構成員、有働恵子構成員、森下秀昭構成員、柴田亮構成員

設置要綱第6条に基づく出席者：佐々木幹夫観測予報管理官

欠席：平山克也構成員

1 検討項目

① 海岸保全基本計画の概要

- ・今後の検討手順、第3回検討協議会の議題を確認・共有した。

② 津波浸水被害に対する計画外力の算定

- ・前回検討協議会を踏まえて、見直しを行った外力算定方針を確認・共有した。また、津波シミュレーションの再現計算結果と2℃上昇シナリオによる本計算結果を確認・共有した。

③ 高潮浸水被害に対する計画外力の算定

- ・波浪・高潮シミュレーション結果を基に構築した簡易推定式により、気候変動後の台風または低気圧での潮位偏差及び有義波高の算定結果を確認・共有した。

④ 気候変動後の防護水準

- ・気候変動後の波浪・高波に対する必要高を算出し、気候変動後の津波に対する必要高を上回らないことを確認・共有した。また、整理した気候変動後の防護水準案を確認・共有した。

2 協議会での主要な意見

- ① ・海面上昇量（+0.4m）を加算した津波シミュレーションを実施したが、場所によっては津波水位の上昇量が大きくなっている。地形的な条件によるのか、最大値を捉えている場所や時間の違いによるのか等を整理した方がよい。また、津波水位の上昇量が0.4mくらいに収まるところは、こういった要因によるものかも整理した方がよい。
- ② ・最大有義波高のRMSEの推定（C1, C2の設定）において、T1610による有義波高・有義波周期の観測値に対する再現計算結果を用いなかった理由をご教示いただきたい。
- ③ ・有義波高が最大となった16年2番目やそれに準じる10年14番目の低気圧を選定しなかったのは何故か。
- ④ ・資料の数値の桁数が検討項目によって異なっている（小数点以下1桁や2桁が混ざっている）。どの程度までの精度を求めるのかを統一した方がよい。それぞれの計算で誤差幅や有効数字があるので、最終的な値で誤差はこれくらい入っているという部分が分かるとある程度参考になると思う。

- ⑤ ・資料の中で「2100 年時点の津波水位を予測」という表記があるが、国で公表している値は 2081 年から 2100 年までの長期間の平均値となっている。分かりやすさのために 2100 年時点という表現を使いたいと思うので、誤解のないよう注釈を追記した方が良いと思う。
- ⑥ ・高潮・波浪に対する必要高さ（仮）に用いられている換算沖波波高 H_0' は、屈折係数を $K_r=1.0$ と仮定したものと思われる。これは、エネルギー平衡方程式法による詳細検討箇所をスクリーニングで得るために導入されたものと存じるので、もしこのような理解で正しければ、このことがわかるようエネルギー平衡方程式法との違いを明示していただく必要があると存じる。

3 検討結果

- ① ・津波シミュレーションの結果、津波水位の上昇量が大きくなった要因や、0.4m 程度に収まった要因の整理を行う。
- ② ・T1610 は陸域の影響を大きく受ける台風であり、本検討で使用している気圧・風場モデルでは当台風の有義波高を適切に評価できないため、T1610 の再現計算結果を用いていない。
- ③ ・16 年 02 番目の低気圧は、形状係数 B を設定するにあたり、当低気圧を含めると形状指数 B の値が過剰に大きくなるため、選定対象から外した。また、10 年 14 番目の低気圧は、再現対象以外の低気圧も同時に通過しており、本検討で使用しているモデルでは当低気圧の有義波高を適切に評価できないため、再現の対象外とした。
- ④ ・各検討項目で用いている数値の桁数及び表現方法等について改めて整理を行う。
- ⑤ ・誤解が生じないように注記等を行う。
- ⑥ ・記載内容について改めて整理を行う。